

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県 中之条町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	93.83	73.90	3,074	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,326	439.28	32.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,493	9.83	1,067.45

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】令和6年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

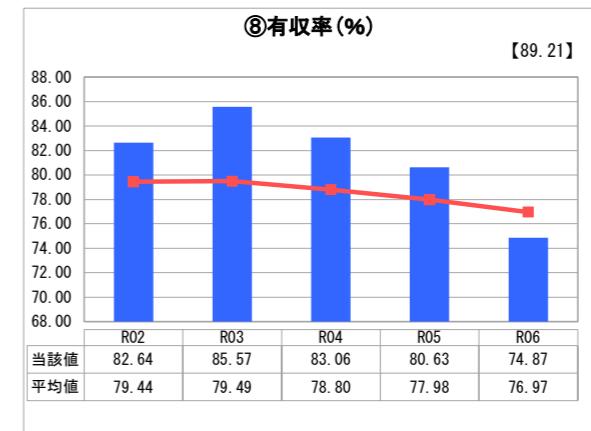
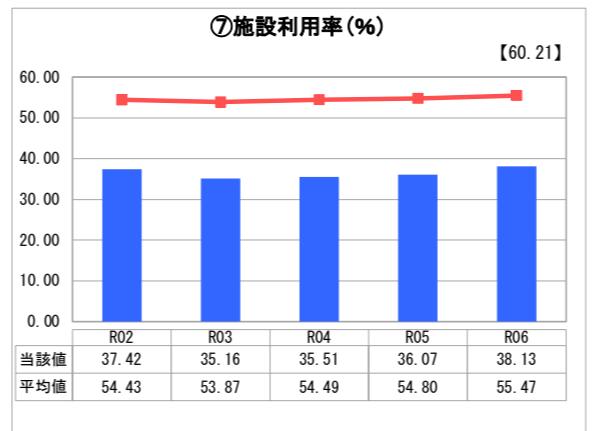
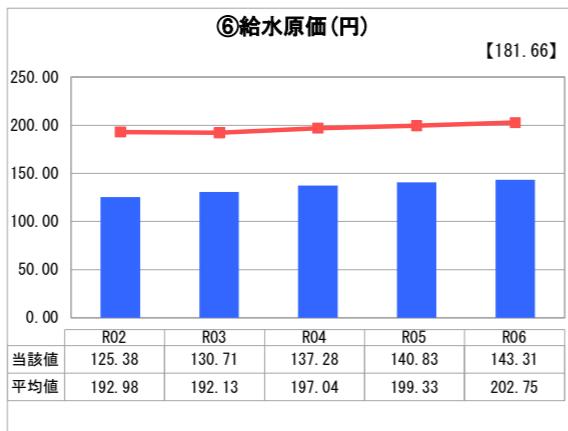
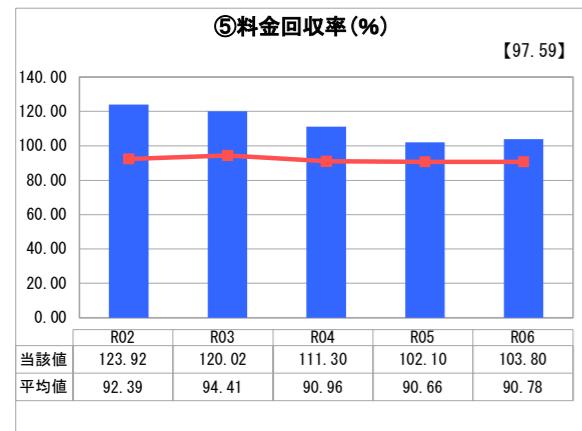
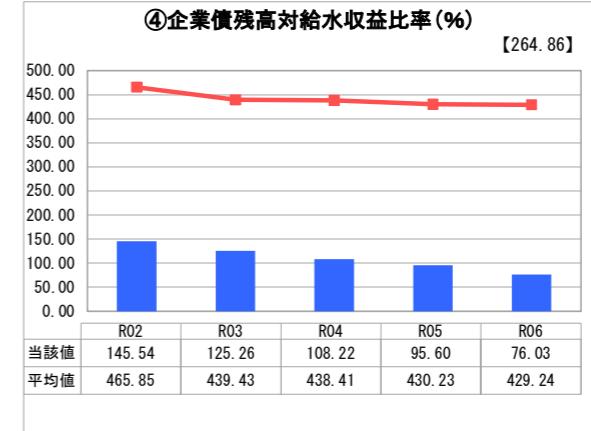
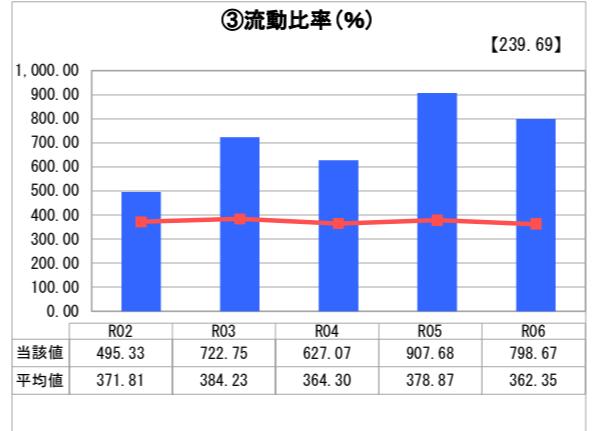
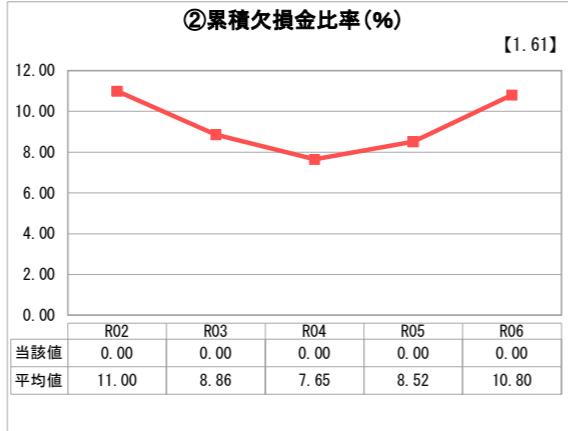
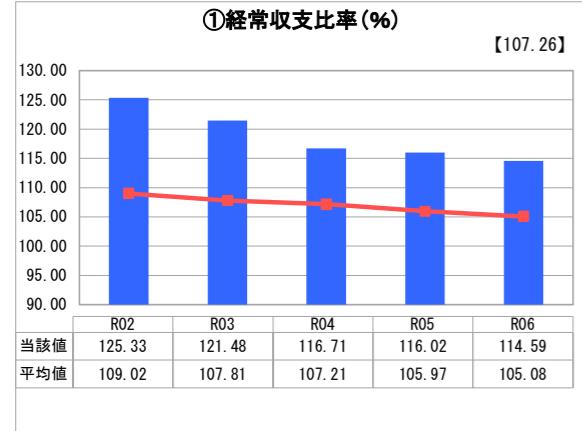
- ①経常収支比率が100%を超えており、現時点では問題ないと考える。しかし、右肩下がりになっているため、将来的な数値に不安が残る。
- ②累積欠損金比率は0%で欠損金が無い。
- ③流動比率は平均値を大きく上回っている。収入が安定していることや、借り入れがなく短期的な債務に対する支払い能力がある。
- ④企業債残高対給水収益比率は類似団体と比較して低くなっている。新たな借り入れがなく企業債残高が少なくなっている。
- ⑤料金回収率について、100%を超えているため給水に係る費用を給水収益で賄っている。前年度より僅かに増加している。
- ⑥給水原価は全国平均より低く、費用の抑制など効率的な経営が行われている。しかし、増加傾向が見られるため、今後の漏水対策等が必要になる。
- ⑦施設利用率は人口減少による使用量の減少により低水準となっている。統廃合や施設規模の見直し等改善が必要である。
- ⑧有収率は減少傾向にある。水管の老朽化による漏水修理等が今後の課題である。施設の能力は以前と同じだが、人口が減少しているため施設利用率が類似団体平均値より下回っている。このため、施設の統廃合・ダウンサイジング等をおこなっていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

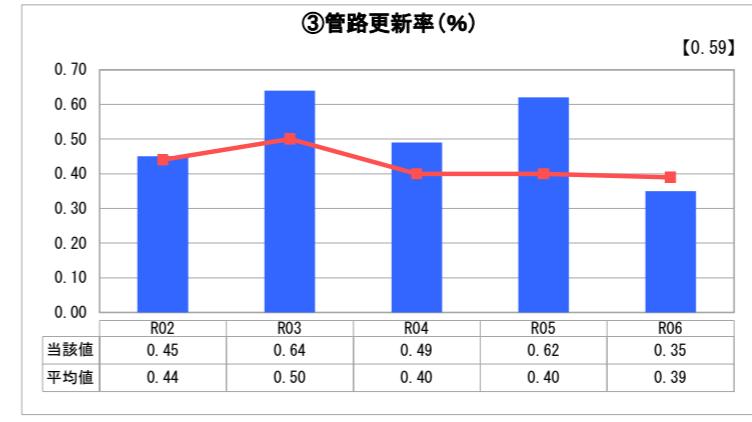
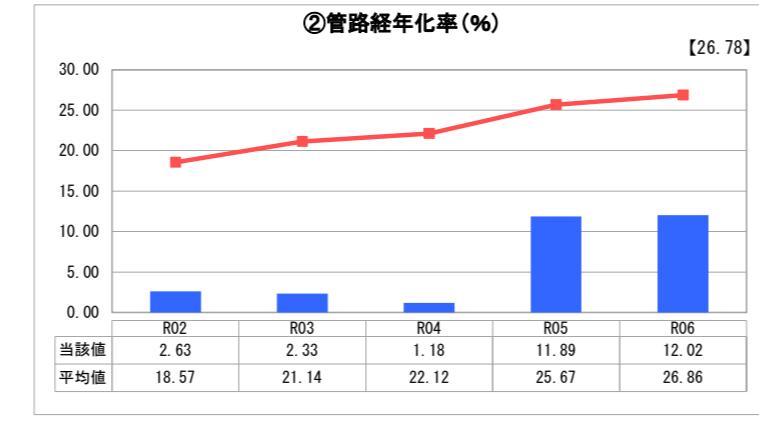
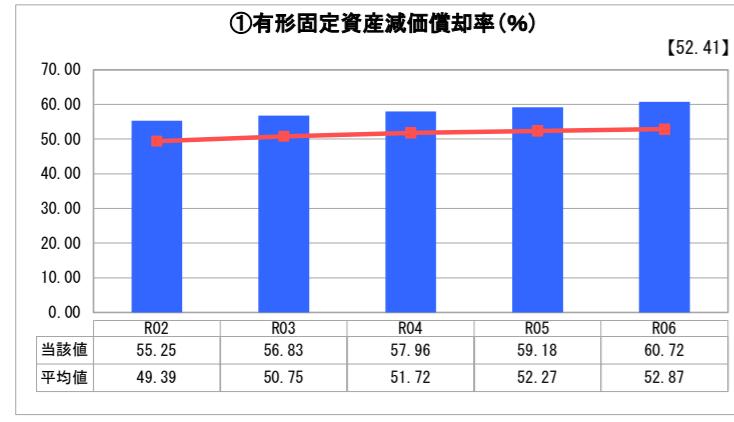
- ①有形固定資産減価償却率は60.72%と老朽化が進行している。法定耐用年数に近い資産が多くなっている。
- ②管路経年化率は12.02%となり、老朽化が進んでいる。法定耐用年数を過ぎたものが増加しているため、更新等の必要性が高くなっている。
- ③管路更新率は0.35%で、今後も計画的に更新していく必要がある。

各施設については老朽化が進んでおり、毎年度修繕費用が大きなウエイトを占めているため、計画的な更新を進める必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

給水収益は、人口減少や使用者の節水傾向等により年々減少し、今後増加は見込めない状況である。

施設は老朽化等による修繕経費が増大していく傾向であり、修繕に係る費用も物価高騰の影響による値上がりが続き深刻な問題となっている。物価高騰は町民の生活にも大きな影響を与えたため、令和6年度については2か月分の水道料金基本料の免除をおこなった。減額分については、町からの補助金で対応している。

人口減、修繕経費の増加等は深刻な問題であり、今後の経営は、より一層の経費節減と効率化に努める必要がある。